

ふるさと歴史アラカルト

150年前の戦争 芸州口の戦い

150年前の慶応2(1866)年6月、江戸幕府を中心とした征長軍と長州藩による戦争が始まりました。それは現在「第二次長州出兵」「第二幕長戦争」と呼ばれ、山口県では、長州藩の4カ所の国境地域が戦場となつたことから「四境戦争」とも呼ばれています。四境戦争は長州藩の勝利で終わり、江戸から明治へと新しい時代を迎える大きなきっかけとなりました。

岩国からも多く出兵した芸州口の戦いは、6月14日に始まりました。芸州口では、かつては征長軍5万と長州藩千が戦つたといわれていましたが、近年の研究では征長軍は2万5千程度、長州藩は2千程度であったともいわれています。実際の人数ははっきりしていませんが、いずれにしても、征長軍の方が圧倒的に多かったことは明らかです。では、数で劣る長州藩が勝利できたのはなぜでしょうか。長州藩の武器と戦術を見てみるとその理由の一つが分かってきます。

武器については、彦根藩(征長軍の

一軍)から奪つた銃などの戦利品について、長州藩にとっては「無用の品」だったとする記録が残っていることから、一部では長州藩が上回っていたことが分かります。しかし、征長軍全体で考えると、小銃や大砲の数もですが、強力な軍艦を持っていた征長軍の方が総合的には勝っていました。そのため、武器だけでは勝つことができなかったといえるでしょう。

戦術については、長州藩では散兵(兵を広く散開させて戦う方法)という戦術で、数で勝る征長軍に対抗しました。この戦術の実現には、個々の効率的な動きが求められるため、指揮官だけでなく全ての兵士が戦術を理解する必要があります。長州藩では、徹底的な訓練によりこれを実現し、また、それが同時に最新鋭の武器を征長軍より有効に活かす結果を生み出しました。

良い「モノ」があつただけではなく、それを「ヒト」が効果的に扱つたことが、新しい時代を切り開くきっかけとなつたのです。

岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※広島(安芸)との国境である芸州口、島根(石見)との国境である石州口、四国との国境である大島口、福岡との国境である小倉口



『芸州小瀬川合戦略図』
征長軍側が書いたものであるため、長州藩は賊軍と書かれている。――に「賊ハ散兵ニテ、井伊家ハ連隊ナリ」と記してあり、長州藩と征長軍の戦術の違いが分かる

岩国市 人口・世帯

人口 139,161人【前月比 + 240人】 男性 65,945人 女性 73,216人

世帯 66,484世帯【前月比 + 250世帯】 ※外国人人口を含む(平成28年5月1日現在)

交通事故発生件数 4月分事故件数 37件(148件) 死者数 0人(0人) 傷者数 41人(179人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成28年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337